

### 三月の御教え

金光様に「世間では、死んだ後に地獄へ行くとか極楽へ行くとか、いろいろに申しますが、いったい、人間は死んだ後どこへ行くのでしょうか」とお伺いしたら「金光大神もまだ修行中で、死んだ後のことまではわからないが、この世に生きて働いている間に、日々安心して正しい道さえ踏んでいれば、死んだ後のことは心配をしなくてもよい」と仰せられた。

……「天地は語る」第六十二条……

### 解説

ここでは、金光大神様は「死んだ後のことまではわからない」と仰っていますが、教典には、何人かの篤信の方々が「金光大神様より教えられた死後の事」を、書き残されています。しかし、一般信徒の「死後の世界への問い」に対しては「何事も神様にお任せして、日々正しい道を踏んでいけば、死後のことは心配しなくても御蔭を頂ける」と御教え下されているのであります。

では、「正しい道を踏んでいけば……」との「正しい道」とはどのような在り方ででしょうか？それは、「神人あいよかけよの生活運動」に示されている「願い」を実践することであると思います。大天地の中に命を頂き生かされている「神様のおかげに目覚め」不平不満を去り「お礼と喜びの生活を進め」我欲、執着を去って「人を祈り助け導く」ことを日々願ひ続けていくことであります。そうすれば必ず、天地の道理を知らせていただき、生死を通しての大安心の御蔭を頂くことができますのではないのでしょうか。